

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800145
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 虹の里
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73
自己評価作成日	平成 21年 8月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・感染症に対する予防や対応を常に意識しながら、食事前の手洗い・外出後の手洗い・毎食後の歯磨きなどを徹底している。また、入浴においても一人ひとりの希望をお聞きし時間に気にせずゆっくり楽しんで頂けるよう毎日実施して清潔保持に努めている。
 ・年間を通して、様々な行事・ボランティアの受け入れは楽しみとよい気分転換になっている。
 ・共用型認知症通所介護事業では、グループホームならではの細かな対応と柔軟なサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設施設が隣接しており、大型複合施設の利点を生かし手厚いケアが実践できている。また、職員の資質向上のための研修も全体で行う等、規模が大きく充実している。
 隣接する特養や老健、ケアハウスにも馴染みの利用者が入所しており、関係が切れないう職員が支援している。
 職員は利用者のことを常に中心に考えているため、落ち着いた雰囲気の中で利用者は穏やかで自由な生活を送ることができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム虹の里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

森田 春美

評価完了日

21年 8月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域とのふれあいを大切に、自立支援を心掛けた理念を作り、ホーム内のわかり易い所に掲示し、朝礼で復唱し共に理念の実現に向けて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 長年、慣れ親しんだ理念を職員全員で共有し、実践している。さらにふさわしい理念を構築するため常に問題意識を持ち検討を重ねている。</p>	現在の理念に満足することなく今以上にふさわしい言葉や表現を検討中であり、更なるレベルアップを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人全体でおこなう七夕祭りや盆踊りなどでは地域の方々にご参加いただき親睦と連携を深めている。また、出来る限り地域のサロンへ参加し交流が持てるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 周辺には民家がなく、ホームを訪れるには急な長い坂道があるため日常的に訪問してもらうことは困難であるが、その分地域の行事等に積極的に参加して交流を深める努力をしている。また、隣接する同法人の施設も地域の一つと考え、交流ができるよう、職員が工夫をしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場において、また、地域のサロンや老人会へ参加し、介護保険制度および認知症ケアについての説明をおこない理解を得ながら色々な支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常生活や行事内容については、パワーポイントを使いわかり易く説明・報告を行っている。また、グループホームや認知症ケアに直結した議題を取り上げ、様々な意見やアドバイスをいただき、また、お互いに情報交換することによりサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議を行う場所がリビングであるため、職員や利用者も参加しやすく、会議の参加者にも利用者の普段の様子が見てもらえる。意見交換も活発になされていることは、丁寧な記録からも読み取ることができる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議においてサービスへの取組みを説明すると共に、疑問点やわからない事など意見交換し実情にあったサービス提供に取り組んでいる。また、必要に応じ担当者に相談する事により、よりよい関係作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 行政との窓口は主に施設長が担当しているが、運営推進会議にも当初から参加してもらったり、行政のモデル事業を請け負ったりと良好な関係を築くことができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 県主催の研修会に参加し職員会にて報告・勉強する機会を設けている。また、職員一人ひとりが柔軟な考え方で根本的な問題解決を図るよう努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 研修会を積極的に受講したり、習ってきたことを職員に伝達研修を行って共有している。また、言葉の拘束にも気を配っており、利用者呼び止めるのではなく、職員が側に行くよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 県主催の研修会に参加し職員会にて報告・勉強する機会を設けている。また、日々の業務の中ではキツイ声掛けや対応はないか職員同士が意識し合う事により虐待防止を徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等に参加しているものの、現在のところ制度を活用するような機会はない。しかし、今後の為にも引き続き職員全員が制度を理解できるよう勉強の機会を設けて行く。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項説明書に添って説明している。また、退居時にはその理由を説明し、合わせて今後の対応を家族と十分協議し理解・納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の悩みや意見・必要とされている事を聞き取り職員間で共有している。また、苦情申し立て先を重要事項の中に盛り込み苦情処理箱も設置している。利用者においては、月1回のふれあい相談員・傾聴ボランティアの来訪時にて利用者の思いを聴いて頂き運営に活かしている。 (外部評価) 入居時に要望をよく聞き取りしている。また、運営推進会議で紹介してもらった傾聴ボランティアにも協力してもらい、職員には話せないようなことも言える機会を設けている。それらで得た大事な情報は、申し送りノートを活用して運営に活かすように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会や日々の申し送りの中で、意見を言える場を作っている。日々の中で実践できるものは直ぐ取り入れるよう努めている。 (外部評価) 施設長や管理者は、普段の会話や会議等の時に特に若い職員が話しやすい雰囲気作りに気を配っている。職員も活発な意見を出し合い、より良い運営ができるよう全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員の努力が、実績として残るように年2回の人事考課を通して給与水準に反映・意欲の向上に繋がるよう組織的に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の段階に応じた研修や多様な研修に参加できるよう配慮している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会への参加、また、近隣のGHとの交流を図り相互訪問の活動をしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談では、ご本人・ご家族より生活状況を聞き、入居後も安心して過ごして頂けるよう関わりを密にした対応を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が困っている事を十分傾聴し、安心して利用して頂けるよう努めている。利用後も状況報告において、利用者と職員の関わりを説明しご家族との信頼関係を深めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、どのような支援を求めているのかを見極めながら様々なサービスの選択肢と一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者が人生の先輩として学ぶ事も多くお互いに支え合う関係をつくっている。日々の生活の中では一緒に考えたり・教えてもらう場面が増えてきている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、現在の状況を報告し、協力して欲しい事はお願いし共に利用者を支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が居られる地元のサロンに参加したり、退所された方々が居られる特養・老健などにも面会へ行ったり、誰もが持っている馴染みの公園・お寺などに出掛けるよう心掛けている。 (外部評価) 併設施設を利用している友人や親戚を訪ねて行ったり、馴染み深い場所にドライブに行ったりしている。また、併設施設や地域の行事等を通じて新しい馴染みができるよう、職員は積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分に把握し、共に楽しく過ごせるよう橋渡しをしながらフロア内の環境づくりにも気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 心身状態の変化により他の施設に入居された時は可能な限り面会に行き、様子も伺っている。又、職員に限らず利用者も訪問できるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、さりげなく思いや意向をお聞きし把握している。また、意思表示が困難な方においては職員本位の考えに偏らないようご家族の意向も含み推察している。	
			(外部評価) 利用者に直接聞き取りしたり、表情や態度から読み取ったりする等一人ひとりの思いの把握に努め、利用者本位に検討している。また、その情報を記録に残し職員全員で共有できるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には、これまでの生活歴をお聞きし、入居後も日常の会話の中からお本人やご家族からお聞きした情報を共有し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の申し送り・夕方の記録の時間において情報の伝達と振り返りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人の思いやどのように暮らしたいかを尋ね、また、ご家族とも話し合い月1回のケース回において個人のプラン・モニタリングについて意見交換をおこなっている。日々の関わりやケース会での意見や気づきなどをプランに反映させている。</p> <p>(外部評価) ケース会を月に1度開催して必ず前回の計画の成果を検証した後に次回の計画を立てている。利用者一人ひとりを受け持つ担当制にしているが、全職員が全利用者のことを把握しておくよう努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個人別記録や申し送りノートにその日の様子や気づいた事を記録し共有している。またケアプランに添ったケア目標を決め毎日評価している。プラン更新の際には見直しがスムーズに出来るようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 複合施設の中にあるGHとして、各施設の機能を活用しながら個々のニーズに対応している。また、共用型認知症通所介護の取り組みは利用者にとっても新たな刺激となっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 併設施設の支援を受けている。また、ボランティアの受け入れ・教育機関とも協働し支援をおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 受診の際には、出来る限りご家族も付き添いをお願い し希望を伝えられるよう支援している。ご家族が付き 添えない場合においても、要望に沿えるよう支援をし 結果を報告している</p> <p>(外部評価) 通院の付き添いは家族にしてもらっているが、家族の 事情や状況によってホームですること多々ある。利 用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援 している。また、母体が医療機関であり、併設施設の 医療従事者との協力体制も確立されているため、いつ でも安心して医療を受けることができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホームの看護師による毎日のバイタルチェックにより 健康状態を把握し、異常のある時は相談し医療機関等 へ受診している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中は病状の把握が出来るように見舞いやご家族へ の連絡を密に行い、病状が安定すれば退院後の援助に ついて病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時の説明と共にご家族の思いを聴くようにしてい る。重度化したときはご本人の状態を詳細に伝え、話 し合いの頻度も多く持ちながら、利用者の状況に 応じて適切な施設利用を検討、また、活用できるよう支援 している。</p> <p>(外部評価) 基本的に看取りはしていないことを利用者や家族に入 居時や随時説明しているが、家族等の意向を尊重し、 できる限りホームで生活できるよう複合施設の利点を 活かし看護師等の関係職員が協力し合いケアを実践し ている。</p>	併設施設の看護師の協力も得られるが、特に夜間は職 員数も少なくなることから、現在行っている応急手当 等の緊急時の対応方法についての研修を今後も継続し ていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 夜間帯の対応については、マニュアルを作成しているが定期的な訓練は行われていない。今後、救命講習を含め事故発生に備えておきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 併設施設との火災訓練を年2回実施。利用者参加の避難訓練にて、避難経路の確認をするとともに課題や改善点を話し合っている。また、運営推進会議にて啓発運動も行っている。 (外部評価) 併設施設にも協力を得て、夜間やいろいろな災害を想定して実施している。運営推進会議等でも災害時の協力を要請している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応は家族のように親しみをもっておこなうが、馴れ合いにならないよう気をつけ人生の先輩である事を常に意識すると共にプライバシーにも十分気をつけている。 (外部評価) 言葉かけに気をつけ、命令や指示にならないように気をつけている。また、何があっても職員は常に冷静に対応するよう心がけ、誇りやプライバシーを損ねないよう気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定できる方には希望をお聞きし、意思表示が困難な方においては、表情や状態から読み取りいくつかの選択肢を用意し出来る限りご本人が決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の一定の流れも大切にしながら、利用者の個々の思いをお聞きし希望にそえるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2カ月に一度は理容師さんに来て頂き、個々の希望に添ったカットをしてもらっている。また、外出時にはおしゃれに気を配れるような服装を選び楽しい外出が出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・片付けなど食事に関する一連の流れを利用者の能力に応じてお手伝いしてもらい、楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。 (外部評価) 職員は利用者と共に準備や後片付けを行っている。また、食事も利用者と職員と一緒に食べ、作ってくれた人へ感謝をしながら和やかな雰囲気の中で楽しく食事できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の摂取量をチェックシートに記入し確認をおこなっている。摂取量の少ない方には盛り付けを工夫したり、代用品にてその方に合った方法で支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きの声掛けをし一人ひとりに応じた声掛けや介助を行い、週一回の義歯消毒をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて確認し、声掛け・誘導を行い失敗のないように気をつけている。また、普段の行動パターンにも気を配り対応するよう心掛けている。	
			(外部評価) 日中はトイレで排泄することを基本にしており、声かけを行ったり様子を見ながら誘導している。夜間については、安眠との兼ね合いを見ながらトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の献立にはいつも野菜を多く取り入れたり水分摂取にも気をつけている。また、掃除や体操で身体を動かす機会を適度に設けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴の希望を聞き、午後から時間を気にせず入浴していただいている。	
			(外部評価) 利用者の希望や気分に合わせて入浴を支援している。入浴をあまり好まない利用者には、時間を変えたり声かけする職員を変えたり工夫をしながら入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動において、疲れのみえる方には休憩の声掛けをし、また、一人一人の就寝時間を把握し安心して休めるよう声掛けをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表にて個々の服薬状況を把握している。また、薬の説明書にて副作用等を理解し、症状が改善されなければ再度医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は一緒に台所に立ち調理をしたり、外出の好む方は日課の散歩を行ったり、その方・その時に合わせた支援を行っている。年間を通して様々なボランティアの受け入れは楽しみと同時によい気分転換に繋がっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ゴミ捨て・六地藏参りは散歩を兼ねての日課となっている。個別に希望をお聞きし併設しているケアハウス入居者と一緒に出かける機会があったり、ご家族の計画で外出していただける事もある。 (外部評価) 敷地が広く、周囲には緑が多いため敷地内で十分散歩や日光浴ができる。利用者の希望によりショッピングセンター等によく買い物にでかける。近くに同法人の託児所等もあり、子どもに会いに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 病状的に、ご本人の管理が難しいため基本的には預かりとしているが、買い物の際は可能な限りご自分で支払いできるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 事業所より必要事項等でご家族へ電話連絡した際、ご本人への取次ぎをしている。また、ご本人からの要望時にも同時の支援している。手紙については、暑中見舞いや年賀状など季節に応じたご挨拶ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには、四季折々に花を飾り、ご利用者と一緒に行った作品やお雛様・五月人形など置き、その時々に応じて季節感を取り入れられる工夫をしている。	
			(外部評価) リビングのほぼ中央にテレビが置かれ見やすい位置に、座り心地のよいソファが配置されている。飾り棚には行事等の写真や、かわいい小物が飾られ和やかな雰囲気づくりがなされている。利用者は大半の時間をリビングで過ごし、みんなでテレビを見たり談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 皆で過ごせるフロア。一人になれる自室。気の合う利用者と過ごせる場所にと椅子を配置し精神的なバランスを保てるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご家族と相談のうえ、使いなれた物を持って来て頂いたり、写真や絵手紙を飾るなどご利用者の生活スタイルに合わせて工夫をしている。	
			(外部評価) テレビや仏壇、身の回りの物を持ち込むことができ、家族の協力を得ながら居心地のよい落ち着いた雰囲気の居室を、自分で作りあげられるよう職員は支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご本人が迷って混乱を起こした時は、メモ書きを残し説明をしたり、自室のドアにはわかり易く目印を付ける・共有スペースに保管している物には個々に名前を入れ、ご自分で確認し、使用できるよう工夫している。	